

地球環境保全行動戦略(令和7年度～令和9年度)

令和7年度 実施状況報告[概要編]

地球のことは、私のこと。
未来のことは、今のこと。

The Earth, Our Home. We Act Now for a Better Tomorrow.

戦略 1 生物多様性保全への貢献



行動計画(飼育展示)①

希少種の生息域内・域外における保全活動に多様な側面から貢献します

ズーストック種の飼育繁殖

39種/30種以上(R7計画)



多摩で5年ぶりに繁殖したボルネオオランウータン

東京都の策定した第2次ズーストック計画、および当協会の保全プロジェクト対象種のうち、上野11種、多摩13種、葛西9種、井の頭13種、合計39種(※)の繁殖に成功しました。

※当該種数は令和7年1月1日～12月31日の実績であり、複数園で繁殖した種は1種とカウントした。なお、第2次ズーストック計画では東京都環境局所管の大島公園動物園を含め40種の繁殖に成功した。

その他の取組

- ✓ 環境省保護増殖事業と連携し、計10種(小笠原陸産貝類、ミヤコカナヘビ、ライチョウ、トキ、オガサワラカワラヒワ、イヌワシ、アカガシラカラスバト、ウミガラス、トゲネズミ、ツシマヤマネコ)の飼育下繁殖や技術開発に取り組みました。

行動計画(飼育展示)②

飼育下におけるアニマルウェルフェアの向上と維持を図ります

エンリッチメント・ハズバンダリートレーニングの実施



採食時間延長と行動レパートリーの増加を図るための毛皮付き鹿肉の給餌(上野:スマトラトラ)

アニマルウェルフェアに配慮した飼育管理の充実に向け、エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに継続して取り組みました。

<エンリッチメント例>

- ・電磁石とタイマーを使用した夜間の給餌器活用(多摩:アフリカゾウ)
- ・休憩場所や遊具としての消防ホース製ハンモックの設置(井の頭:アカゲザル)

<ハズバンダリートレーニング例>

- ・アジアゾウ・ホッキョクグマの口腔内ケア(上野)
- ・モウコノウマ・インドサイ・チンパンジー等の体重測定(多摩)

その他の取組

- ✓ 4園で実施している10件全ての動物介在教育プログラムで企画書を作成し、企画の目的やアニマルウェルフェアへの配慮などを明確にしてスタッフ間で共有することで、アニマルウェルフェアに配慮した動物介在教育活動を推進しました。

行動計画(飼育展示)③

飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します

飼育繁殖事業や調査研究等を通じて得られた科学的知見について、国内外の会議・学会や、学術誌への論文において積極的に発信しました。

国内外の会議・学会における発表・報告

88件/45件以上(R7計画)

- ・ Use of social media at Ueno Zoo (33rd SEAZA Conference 2025)
- ・ オガサワラカワラヒワ 動物園における域外保全の取り組み(日本鳥学会2025年度大会)
- ・ ルリカケスの生息域外保全と人工育雛(保全・栄養シンポジウム～希少鳥類の保全と栄養～)
- ・ オリイオコウモリで発生した低カルシウム血症について(第73回動物園技術者研究会) など

学術誌への論文掲載

職員が筆頭著者として6件の論文を発表するなど、研究データの整理分析および執筆に向けた取組が進展

- ・ 「飼育下アイアイ(*Daubentonia madagascariensis*)の行動的安定による採血のためのハズバンダリートレーニング」(日本野生動物医学学会誌Vol.31 No.1)
- ・ 「飼育下ヒガシクロサイにおける雌の血中性ステロイドホルモン濃度動態に基づく発情期と雄の行動変化の関連」(動物園水族館雑誌 第67巻 第1号)
- ・ 「東京都多摩動物公園の陸生異翅亜目」(Rostris, No. 70)
- ・ 「過去22年間の葛西海浜公園西なぎさ(東京都)における魚類相」(日仏海洋学会 La mer 63巻) など

戦略1 生物多様性保全への貢献



行動計画(教育普及)①

より多くの来園者に向けて、多様な教育普及活動を展開し行動変容を促します

野生生物の現状を伝える教育活動



身近な水辺保全講演&観察会
「ハクチョウと旅するスワンププロジェクト-知る、考える、水鳥のくらし」

講演会・シンポジウムの開催(計9件)や国際的な記念日にあわせた情報発信(計20件)などを通じて野生生物の生息地における現状や、動物園が取り組む保全活動、一人ひとりができる環境保全について伝えました。

井の頭自然文化園で開催した、身近な水辺保全講演&観察会「ハクチョウと旅するスワンププロジェクト-知る、考える、水鳥のくらし」では、会場とオンライン合わせて192名が参加し、「自分も何か行動していきたい」および「微力ながら協力できるように思いました」など、参加者の行動変容につながるような感想も寄せられました。

園内の自然を活用した教育普及活動



「雑木林で生きもの探し」

園内植物の適切な維持管理だけでなく、教育普及活動の資源として最大限活用しました。多摩動物公園では、NPO法人樹木・環境ネットワーク協会と連携して、非公開エリアの雑木林で野生の昆虫や植物を観察するイベントを実施するなど、身近な緑を保全することの意義を参加者へ伝えました。

その他の取組

- ✓ 東京の野生生物の現状や保全の取組をより多くの方に発信するため、小笠原陸産貝類のリーフレット「マイマイの楽園」等を改訂したほか、11種のリーフレットを来園者やプログラム参加者などに配布するとともに、公式ホームページで公開しました。

行動計画(教育普及)②

教育機関と連携し、地球環境保全に向けた環境教育をサポートします

教育機関との連携(教員研修)



講座「動物園での生きもの観察の視点と導き方」

毎年実施している教員向け研修では、新たに「スイミーが出会った生きものたちのひみつ」「身近な水辺で体験! 外来生物ってなあに?」「動物園での生きもの観察の視点と導き方」の3コースを開発するなど、13講座を計27回開催し、参加者は過去最多の735名となりました。

そのほか、学校教員へのヒアリングを10件実施し、新たなプログラムや教材の開発に生かしました。

教育機関との連携(教材の制作)



オンライン教材「どうぶつの赤ちゃん」

教員からの要望が多い「どうぶつの赤ちゃん」「モルモットをみよう・しろく・なかよくなろう」のパッケージ教材を新たに2件開発、公開しました。

その他の取組

- ✓ 中高生の動物園水族館利用を促す企画である「動物園・水族館レポートチャレンジ」には、過去最多となる900組超の応募がありました。学習支援として、レポート作成のポイントを伝える動画を制作したほか、学校向けの事前・事後授業を3校(10件)実施しました。



行動計画①

化石燃料由来エネルギーの消費抑制や利用効率化、再生可能エネルギーの利用に努めます

省エネルギー機器への転換を推進



ポンプ設備更新時にインバーターを導入(上野)

ポンプ設備へのインバーターの導入(上野動物園)、照明器具のLED化(多摩動物公園)など、既存設備の更新時等に省エネルギー型機器への転換を推進し、エネルギー消費抑制を図りました。

その他の取組

- ✓ 両生爬虫類館、池之端門脇トイレ、パンダ観覧列(上野動物園)、レストランシーウインド(葛西臨海水族園)、入場券売り場横(井の頭自然文化園)で緑のカーテンを設置し緑陰環境を創出したほか、空調機の室外機への日よけ設置(多摩動物公園)や遮熱シートの設置(葛西臨海水族園)により日射対策を行いました。

行動計画②

園内樹木を適切に管理し、緑の充実・保全と良好な都市環境の形成に努めます

園内樹木・樹林の良好な管理



補植用苗の育成・植樹(多摩)

定期的な樹木点検や整枝剪定を行うなど、園内樹木等の良好な管理に努めました。

また、近年、各地で猛威をふるうナラ枯れ被害の拡大を防ぐため、多摩動物公園ではナラ枯れ被害木の伐採作業(470本)と予防のための樹幹注入作業(31本)を実施したほか、NPO法人樹木環境ネットワークと協力して補植用苗木を育成・植樹し、ナラ枯れで痛んだ樹林の再生に取り組みました。

その他の取組

- ✓ 上野動物園では、虫害予防のための樹幹注入を69本実施しました。
- ✓ 井の頭自然文化園では、ツバキやフジの開花を補助するための剪定を実施しました。

行動計画③

地球環境に配慮した行動様式の見直しや事業運営の推進を図ります

予防保全的見地に立った施設補修



防水工事と併せて舗装補修を実施(上野)

施設の長寿命化を図るため、予防保全的見地に立った施設補修・修繕、設備更新等を実施しました。上野動物園では、観覧通路の老朽化が進んでいたゴリラ・トラのすむ森にて、防水工事と併せて舗装補修を行いました。

その他の取組

- ✓ 省エネDayとして、土日祝日や出勤人数の少ない日に不要な電気を消灯しました(総務部)。
- ✓ 前年度に試行した10件のデジタル様式に見直しや追加を行った上で、合計14件の申請事務をデジタル化し、先行して総務部と井の頭で実運用を開始しました。
- ✓ 店舗で使用する冷蔵庫・冷凍庫等の機器更新に合わせて、より環境負荷の低い機器に入れ替えました。

戦略 3 循環型社会への寄与



行動計画①

各種資源使用量の削減と再利用を推進します

各種資材等の見直しや再利用の促進



企画展では再利用可能な木製の単管パイプを使用(井の頭)

彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.9「アヤ井アキコ 絵本『こうもり』原画展」(井の頭自然文化園)では、再利用可能な木製の単管パイプを使った組み立て式の什器を使用するなど、再利用可能な素材を積極的に使用しました。

その他の取組

- ✓ 教育目的に配布する印刷物については、可能な限りFSC認証紙や再生紙を使用しました。
- ✓ 「のんびり楽しむ動物園水族館ドリームナイト&イブニング」(葛西臨海水族園・井の頭自然文化園)の参加者に配布するノベルティでは、リサイクルコットンを使用したエコバッグとするなど、環境への負荷が小さいものを選択しました。

維持管理で生じた発生材の再資源化



剪定枝を飼育動物(ヤギ)の飼料として活用(上野)

園内の景観保全や樹木の健全な育成を図るために剪定された枝葉の一部を、展示場内の組木や動物の餌として活用しました。

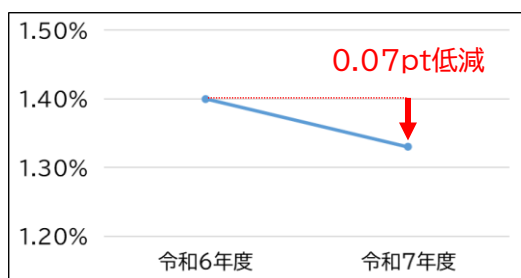
その他の取組

- ✓ 上野動物園では、ジャイアントパンダの残餌の竹をチップ化し、木チップ舗装として活用しました。
- ✓ 多摩動物公園では、園外の再資源化施設に約170tの剪定枝葉を搬出し有効利用しました。
- ✓ 葛西臨海水族園では、既存花苗など維持管理で生じた発生材の再利用を推進しました。

行動計画②

飲食店の食品ロス低減に取り組みます

飲食・物販店のフードロス低減



4園のフードロス率推移

前年度に引き続き、総務部と4園の飲食店担当者を中心とするワーキングを開催し、閉店間際はオーダー制にして調理食材の在庫をしないなどのフードロス削減に向けた取組項目を掲げて実行した結果、ロス率(売上に占める廃棄額の割合)は1.40%から1.33%となり、前年度比-0.07ptを達成しました。

その他の取組

- ✓ 店舗及び取引問屋の在庫状況の把握や在庫過多の商品の点検により、フードロスの状況を分析するとともに、4園の取組状況を見える化することで、取組が不十分な領域について改善を促進しました。

行動計画③

環境に配慮した国際認証製品の使用など、事業の持続可能性を高める取組を推進します

環境に配慮した製品の使用



FSC認証紙を使用した紙カップ

4園のレストラン等において、FSC認証紙を使用した紙カップを導入したほか、カップや蓋をプラスチックから紙に変更してプラスチックの使用量を削減しました。

その他の取組

- ✓ 上野動物園では、油酸化試験紙を導入して廃油回数を減らし、フライヤー用食用油の廃棄量を削減しました。
- ✓ 多摩動物公園のサバンナキッチンでは、レシピを紙からタブレット運用に変更し、店舗の紙使用量を削減しました。

戦略4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化



行動計画①

地球環境保全の推進に向けた実践的な組織体制を構築します

地球環境保全の積極的な情報発信



リニューアルしたホームページで発信力を強化

公式ホームページを全面刷新し、当協会の地球環境保全に関する取組の発信力を強化しました。

また、地球環境保全に関する情報発信の一環として、国際展示場で開催された「エコプロ2025」に東京動物園協会ブースを出展し、3日間で1,698名に都立動物園等の環境保全に関する取組などを紹介するとともに、ブース出展者や来訪者との商談等を通じて多様な主体との連携協力関係の強化を図りました。

そのほか、「ヤマネコ祭」(10月・井の頭自然文化園)や世界野生生物の日のイベント「買って・知って まもるシェ!」(3月・上野動物園)においてもブースを出展し、情報発信を行いました。



「エコプロ2025」(国際展示場)



世界野生生物の日のイベント(上野)

地球環境保全に関する意識啓発



東京港内の埋立処分場や中間処理施設を見学

レストラン等の若手中堅職員が東京港内の埋立処分場や中間処理施設を見学し、フードロス削減や環境問題についての知識を深めました。

その他の取組

- ✓ 新入職員研修において、本戦略の概要を説明するとともに、担当部署より各戦略に関する主な取組について解説することで、地球環境保全に関する意識啓発と人材育成を推進しました。

行動計画②

多様な主体との連携を強化し、地球環境保全のための事業を推進します

野生生物保全基金のPR



野生生物保全基金活動報告講演会

保全パートナー部門について新たに1件の助成を開始し、継続助成先と併せて3件の共同研究を開始しました。

また、助成対象活動の活動報告講演会を開催し、研究要旨を東京ズーネットで公開したほか、東京動物園友の会の会誌「どうぶつと動物園」に研究成果をまとめた記事を掲載するなど、保全基金のPRとなる普及活動を実施しました。

その他の取組

- ✓ 野生生物保全基金の助成制度を広くアピールするとともに、助成対象活動を公募し、一般部門の助成を7件、中高生部門の助成を5件実施しました。
- ✓ 「ツキノワグマについてもっと知ろう」(多摩動物公園)や「つどえ オロロ〜ン!」(葛西臨海水族園)など、野生生物の保全に取り組む団体と連携して普及啓発プログラムを実施しました。